



2008.3.31 発行

めんたるねっと

YMSN 情報誌

(特定非営利活動法人)横浜メンタルサービスネットワーク

第16号

Vol.4 No.4

	トピックス	進む「地域移行」と課題の「人材確保」	1
	地域の取り組み	東京都足立区 当事者対象にピアサポート養成講座	2
	研修報告	生活保護をめぐる、最近の動向	5
	SSTの現場から	横浜家族SST交流会がピアサポーターに	7
	就労の現場から	精神障がい者の雇用現場スタッフが交流	9
		予定・報告	11

進む「地域移行」と課題の「人材確保」

制度に見合った人材の確保を

長期入院患者の地域移行が重視され、中央社会保険医療協議会が2月13日に厚生労働大臣に答申した2008年度の診療報酬改定案によれば「精神障害者の地域移行を促す加算を設けるなどして精神医療の充実を図り、退院支援を強化する方針。退院加算の算定要件には、精神保健福祉士、社会福祉士といったソーシャルワーカー（SW）を位置づけた」（福祉新聞2月18日付）。

精神障がい者の地域移行については、地域の受け皿、医療機関のデイケア、地域作業所、地域活動支援センター、グループホーム、生活支援センター等が整備される中でようやく実施可能な状況が整えられたといえる。その上に立って、医療機関が1年以上の入院患者に対して退院計画を策定することを評価して報酬化の方向が出されたのは、関係者の一人として評価でき歓迎できることである。

また、横浜市でも06年より神奈川区生活支援センターをはじめ退院促進事業が始まっている。徐々に緑区、磯子区生活支援センターと実施箇所も増えつつある。

そのほか、自立生活アシスタント派遣事業もスタートし、援護寮や生活支援センターが取り組みを始めている。これらの事業が広がることで、退院が促進されるだけでなく、地域生活への定着が図られることが期待できる。

しかし、これらの業務に関わる人の確保はどのように考えられているだろうか？ 医療機関のSWがこの事業で成果を上げるために積極的に取り組むには、さらなる人員増員も必要になるのではないかと。アシスタント派遣事業も新人SWでは心もとなく、「ベテランとの組み合わせでもほとんど新人を育てていく余裕がない」との現場の声も聞く。

地域移行が制度としては試行状況にある中で、どのような人材がどれくらい必要なのか？そしてどう育てていくのか？ 制度化された背景や理由に、むしろ入院医療費の国庫負担を減らすことが大きく影響するとしていると人材面については十分検討されているかは疑問である。

制度が整いつつある中で、精神障がい者が地域で生活者として定着していくためにこの課題をおろそかにすることなく取り組んでいかなければならないと考える。

（YMSN理事 森川充子）

足立区生活支援センター ピア・サポーター養成講座の試み 精神障害者退院促進事業を担う当事者たち

田園調布学園大学 舩松克代

はじめに

2004年厚生労働省は、今後10年間で社会的入院を解消するとの目標を掲げました。現在、同省の調査では、受け入れ条件が整えば地域生活ができる人たちが7万5900人いると報告しています。そして各市町村は退院促進事業を行うことになりました。これは各地域では難題でもあります。しかし様々な地域で特色ある事業が展開され始めています。

今回筆者は東京・足立区生活支援センターの依頼を受けて、「ピアサポーター養成クラス」というものに講師として関わらせていただきました。ここでは退院促進事業の中の重要な担い手として「精神障害のある人たちで病状が安定し、他者支援を行おうという意欲ある当事者」をピアサポーターとして位置づけ、養成しようという画期的な試みです。

地域精神保健を行っている方々にとって、参考になればと思い、ご紹介申し上げます。

1. 参加者の選定

生活支援センター利用者の中から病状はある程度落ち着いており、本人が他者支援を行う意思がある、またはそのような素養があるだろうと考えられる人を選考することから始めました。センター職員が希望者には面接を行い、簡単な説明とアセスメントを行い、メンバーが10名選ばれました。その中には依然幻聴や妄想が残存する方も含まれていました。

2. ピアサポーター養成クラス

全3回のクラスは毎回2時間半で、1回目はピアサポーターの役割、そして自分の病の過程を話、自己覚知を行うことを重点に行いました。2回目はピアカウンセリングの演習で特に相談を受けた時の問題の分析、そして傾聴のトレーニングを行いました。ここまでは筆者が担当し、3回目は実際に「地域活動支援センターなびい」(場所)で行われているピアメンバーの自主活動を聞くというのが全3回の内容です。

3. 自分の病との付き合いを語る

10名のメンバーは、統合失調症の方が主ですが、その他に軽度の知的障害の方、神経症の方もいらっしゃいました。統合失調症といっても、本人たちの話から想像するに妄想型や単純型、緊張型など様々な方がいらっしゃいました。

まず筆者の私は、皆さんの歴史を教えていただくことから始めました。一人一人がいつから自分の病と出会い、どのように付き合い、そして現在に至っているかという話をグループの中で発表していただきました。緊張型統合失調症と思われるある方は、保護室での壮絶な体験を語られ、働きながらも再発入院を繰り返してきた歴史を語られました。またその他に10年以上の入院生活を送った経験がある方がおられました。筆者が「それだけ入院してきて、退院した後ってどんなふうに見えました？」とお聞きしました。これは長く臨床をしてきた私にとってもとても興味があったが聞けなかった

一言でしたが、思い切って聞いてみたところ「うれしいというよりあまりにも世の中が変わっていて怖かったですね。違う世界にきたみたい」とお話ししてくださいました。そのほかにも皆さんが話してくださいましたが、そのどれもが感動的で、心を打つお話でした。

この自分の病を語るというのは、私たち専門家がトレーニングを受ける中で、自分の人生を振り返り、自己覚知を行うという作業に当たると考え取り入れたものです。しかし長く精神科で統合失調症の治療を行ってきた中で、昔は自分の病気の話をするというのは病状を悪くするといわれタブー視されていた時代もあります。けれどこのように自分のことを語るという作業を通して参加者は「初めて行ったけど気持ちよかった、すっきりした」という感想が多かったことに驚かされました。つまり語りの作業の中で自分の障害を受容していく作業、障害というものを含めて自分なんだと認める作業が行われたのだと思います。そして私たちは患者としての病状をお聞きすることはあっても、その人の生きざまをお聞きするというに欠けていたのだ、このように病気との付き合いをお聞きするということはその人自身に興味を持ち、その人たちを受け入れ認めるといことなんだと改めて教えられたのでした。

4. 傾聴トレーニング

2 日目は傾聴トレーニングです。参加者は精神障害者として同じ障害を持った人たちに何らかの手助けをしたいという動機をもって参加しています。ですからカウンセリングの中で重要な技法の一つである傾聴というものに皆さん興味を持っていました。まず次のような事例を提示しました。

相談者は A さん 30 歳男性。最近自宅に退院してきましたが、先々のことを考えて、障害年

金を取ろうかなと退院前から相談をしてきました。しかし別居している両親は「障害者と認定される」と猛反対をしています。それよりも早く仕事を探して働けといつも行ってきます。どうしたものかなと思い、ピアサポーターに相談してきました。さあ、あなたならどうしますか？

ペアになって考えていただきましたが、「両親に連絡をして本人の気持ちを伝える」「専門家を紹介する」などなど様々な意見が出されました。この課題はある気づきを与えるための引っかけ課題です。つまり「問題を解決するのが支援ではなく、その人の気持ちに寄り添うことが最大の支援である」ということに気がついて欲しかったわけです。気づきを促す投げ掛けを与えてしばらく待っていると、ある参加者が「私だったら辛さを分かってくれる人が欲しい」と言ったのです。そこで全員がここでピアサポーターは問題を解決するのではなく、気持ちに寄り添うのが役目なんだ、精神障害を持った自分たちにこそ出来ることであると気づきを得ました。

専門家であっても傾聴というものの本質をしばしば見失います。なにかアドバイスをしなくなってしまいます。特に同じような体験をした当事者であれば、共感しやすい反面、何か言わなければ、言いたいと思ってしまう。しかしそれは時に相談をした人にとっても、ピアサポーターにとっても、プレッシャーやストレスとなります。「寄り添うことが最大の支援である」ということに気がついた参加者は、ピアサポーターというものに抱いていた重荷を下ろし、それだったら私たちにもできるという気持ちを強めたようでした。

そこからの具体的な傾聴のロールプレイは皆さん上手なものでした。気持ちを読み取り、寄り添う姿は、専門家の私ですら感心させられました。

5. 終わりに

精神保健の現場は今、非常に苦しい状況に置かれています。精神病院は急性期治療、短期入院、長期入院者の退院促進を十分ではないマンパワーでこなさなくてはなりません。また受け入れる地域ではノウハウが少ない中、地域生活支援に苦戦し、頭を悩ませています。訪問活動は、効果はあっても労力がかかりすぎ、また時に必要以上の依存関係が生まれてしまうこともあります。それが果たして、本人の力になる(エンパワメントする)支援なのか疑問を持ちます。

私は長年地域支援をして来た中で、しばしば当事者の生活の知恵やたくましさに驚き、学ばされることがありました。特に新人の頃は、当事者の人から支援のエッセンスを教えていただくことも多かったように思います。今回、足立区のピアサポーター講座を担当させていただき、今こそ、回復者の当事者と手を組んで、支援を始める時だと実感しました。自分の通ってきた

道だから、回復者の当事者は傷つきもその立ち直り方も、私たちが想像している以上に考え、習得しています。彼らの力こそ、これからの精神保健福祉を変えていく一端になるのではないかと強く考えました。

最後に講座終了後に届いたある話を載せてこの稿を締めたいと思います。

ある日精神科医の方よりメールをいただきました。自分の担当している患者さんが、ピアサポーター養成講座に参加したそうです。どんな薬を出しても残存していた幻聴が、あの講座に参加した以降、消失して、本人は非常に快活に生活できるようになったそうです。本人の弁によると「こんな私にもできることがあるのだ、難しかったけど参加してよかった」と言っているとのこと。主治医として感謝しますというメールでした。

S S T 普及協会経験交流ワークショップ

1. 会場 一橋大学(東京都国立市・JR国立駅徒歩6分)

2. 期日 平成20年8月30日(土)午後から 31日(日)終日

3. 主な内容(予定)

全体会 会長講演

クッキングハウスによるS S Tデモンストレーションと解説「地域生活で生かすSST」

分科会

- ミニレクチャー
- 医療と福祉の立場から就労支援のS S T
- 認知療法とS S Tの統合
- 当事者S S T
- ベラックらによる「ステップバイステップ方式」を学ぶ
- 家族S S Tの具体化を目指して
- 矯正・保護現場のS S T
- 教育におけるS S T
- 認知行動療法の基礎と面接技法
- 職場におけるメンタルヘルスとS S T
- 退院準備

4. 会費等は未定ですが、家族・当事者・学生割引の設定を計画しています。

「生活保護をめぐる最近の動き」

山田勝尚氏（中福祉保健センター保護課）の報告から

YMSN 精神保健福祉研修会では、3月14日上記のテーマで横浜社会福祉研究会、山田勝尚氏から報告をいただきました。昨年も生活保護について話を聞く機会がありましたが、今回再度「最近の動き」としてお話をいただきました。日々私たちが関わりを持つ精神障がい者との関連だけでも無関心ではいられない動きということもあり、今回山田氏の報告内容をぜひお伝えしたいと思います。

山田氏は、当日のレジメにコンパクトにこれまでの動きや流れをまとめていただいているので、レジメを使いながら主な話の内容をまとめます。

1 生活保護をめぐる最近の動き

山田氏は「1992年にバブルがはじけた後生活保護世帯数が伸び始め、それにかかる費用は今年2兆円となり10年間で倍になっている。

100人に1人が生活保護を受けている状況になっている」という状況をあげます。そして国は生活保護の費用負担を最終的に3分の2（国）：3分の1（地方）まで国の比率がさらに減らすことができないか？ といってきたことをあげ、「未然に生活保護を防ぐ」方策であることを指摘しています。

07年12月時点で生活保護の受給者は約140万人で、92年度の70万人からこの12年間で倍増しました。横浜市の場合も4年以降保護世帯数・保護率ともに上昇し、現在約51,000人（37,000世帯）が保護を受けています。全国では100人に1人が生活保護を受給していることとなります。生活保護予算は約2兆円。増えつづける生活保護費にたいして、ここ5年間の国などの動向をおおざっぱな表にしてみました。

2003年12月	・在り方専門委員会中間取りまとめ	老齢加算の（段階的）廃止
2004年12月	・在り方専門委員会報告	自立支援プログラム導入
2005年11月	・三位一体改革・負担金削減を断念	現在国75/地方25 66/33の割合
2006年 3月 5月 7月 10月	・生活保護行政を適正に運営するための手引き ・北九州市門司の餓死事件 ・骨太の方針2006 ・新たなセーフティーネット検討会	母子加算の（段階的）廃止 リバースモーゲージ導入 有期保護の提案
2007年 7月 11月	・北九州市小倉区の餓死事件 ・生活扶助基準に関する検討会報告	

老齢加算の廃止は、在り方専門委員会からの報告を根拠づけて「一般低所得世帯との均衡を踏まえて」3年間で段階的になくなりました。また、母子加算も段階的に削減させられ、20年度には15～18歳の児童を対象とした加算は全廃となりました。

ところで、こうした増える生活保護に対応する引き締め、いわゆる福祉事務所での申請に対する水際作戦といわれるような対応(北九州市での餓死事件など)にたいして、日本弁護士連合会が6月に全国一斉生活保護110番に取り組んだところ634件の相談が寄せられました。また、全青司=全国青年司法書士協会も7月に全国一斉生活保護110番に取り組み680件もの相談を受けつけています。

こうした法律家たちの生活保護への関心の高まりは、じつはクレジット・サラ金問題での自己破産件数の増大と関係しています。生活保護制度がサラ金よりも知られていないという問題や、保護の申請に対する法律を無視したような行政対応がありました。2006年11月には日弁連が人権擁護大会シンポジウムを開催し「貧困の連鎖を断ち切り、全ての人々の尊厳に値する生存を実現することを求める決議」なども行われました。2007年4月には日弁連として「多重債務問題改善プログラム」制定の法律援助事業や、首都圏生活保護支援法律家ネットワークを創立。6月には生活保護問題対策全国会議の創立に進みました。そんな中で、また7月に北九州市小倉北区の餓死事件が発生しました。

昨年末には、08年度の生活保護基準の引き下げがされるのではないかと心配もあり

ましたが、次のような内容になっています。

2 08年度(第64次)生活保護基準について(特徴点)

ほぼ基準の見直しはされず据え置かれた。

- 母子加算は在宅児童一人約9,000円ダウン
- 障害者他人介護加算 一般基準69,960円、特別基準104,960円
- 住宅維持費118,000円 技能習得費一般基準69,000円、特別基準115,000～184,000円
- 家具什器費一般基準24,800円、特別基準39,700円
- 被服費 布団(新規)17,900円、紙おむつ等22,500円は100円ダウン

3 実施要領上の改正点

申請・廃止・稼働能力の評価・援助方針等の明文化や、多重債務者向けプログラムの策定などについては、日弁連の活動成果の反映です。精神の支援は初年度目標80人に対して36人(うち10人が生保)という状況ですが、社会資源を拡充させることとあわせて実行して行くべき取り組みです。

中身の濃い山田氏の話の中で特に私に強く残ったのは「障害者加算が廃止されないのは、障害者自身や関係者の運動が大きく影響しているのではないか」という言葉でした。山田氏にはお忙しい中いらしていただき感謝です。

(YMSN 森川充子)

ピアサポーターによる SST の実践

～ 金沢区の家族セミナーで横浜家族 SST 交流会がデビュー ～

金沢区家族会「あおぞら会」主催する「ピアサポーターによる SST」が3月9日、横浜市金沢区生き生きセンターで開かれました。

YMSNでは、今年度から定例のSST（社会生活技能訓練）研修会の中で、家族SSTのグループを始めました。そこでは、家族たちがピアサポーターとして活動することを目的にした研修が行われています。参加者は、SST初級10時間研修会を修了され、SSTについて知識を身につけ、加えて、ピアサポーター研修会にも参加され、修了されている方たちです。

さて、今回「ピアサポーターによるSST」を



地域で実践するに当たっては、月1回の研修会のほか、1月から準備を重ね、2月には別に2回、研修室を予約しての練習を重ねてこられたようです。前日は夜10時まで、また当日も朝から会場に集まり、最後の打ち合わせに余念がなかったようでした。筆者である私が会場に着いたときは、準備もすべて整い、会場作りに皆さん、駆け回っていました。通常の家族会では、机といすが用意され、講演を聞くスタイルということで、参加する方々も、「これから何が始まるのだろう」とい

つもと違った会場の配置にざわついている感じがしました。

最初に司会進行の八子さん（ここでは愛称を使わせていただきます）が、この日のスケジュールを説明し、この時間の目的とルールについて明確にしていました。「SSTとは...」と書かれたプリントを配布しての説明の後、SST普及協会認定講師の片柳光昭氏（YMSN会員）より、「認知機能障がいとコミュニケーションについて」の講義がありました。

さて、まだまだ硬さの取れない会場でしたが、八さんのウォーミングアップの「大きな声で笑ってみましょう！ わっはっは... わっはっは...」で一気に会場が和んでいきました。

その後はSSTセッションを2セッション実施しました。

1つ目のセッションのテーマは、「うれしい気持ちを伝える」でした。リーダーのなごみさんが「うれしい気持ちを伝える」というテーマで、会場の皆さんに、最近起こったうれしい出来事を聞いていきました。次々にうれしい出来事が発表され、聞く講義から一気に参加型のセッションに移りました。

次に、シナリオに基づいたお手本のロールプレイ「してくれて、助かったよ」という、うれしい気持ちを伝えるロールプレイと、よくやってしまいがちな、「してくれるなんて、珍しいね...」といううれしい気持ちを伝えられないロールプレイの対象的な場面を見て、「うれしい気持ちをこう伝えると、相手に響くんだ」という体験をしました。



その後、参加者全員が、3人1組のグループになり、「うれしい気持ちを伝える」体験をシナリオに基づいて実施していききました。「うれしい気持ちをこう伝えると、相手に響くんだ」という体験をし、自分には難しいかもしれないけれど、実行してみる価値がある、という思いを持つことができました。

その後、ハチさんから息子さんとのやり取りを体験談として聞きました。自分が帰るまで夕食を食わずに待っていてくれた息子に、「待っていてくれてありがとう」としか伝えられなかったけれど、以前SSTに出会う前の自分だったら、その言葉も言えなかったと思う。息子は、「一人で食べるより一緒に食べた方がおいしいからな！」と待っていてくれたと話してくれました。

第2セッションは、「人の話に耳を傾ける」というテーマです。

セッションのリーダーはかつらさんです。手順は、セッション1と同様ですが、ロールプレイで実施されたシナリオが、誰もが体験のある内容だったのか、2回目だったからか3人グループでのスキルの体験では、大変盛り上がっていました。

開始から2時間30分の間、かなりのボリュームでしたが、参加者全員が集中して、セッションに参加されていたのが印象的でした。

参加者のアンケートからも、たくさんの感想をいただきました。

- 相手の言ってきた言葉をくり返してあげる事。親自身がまず変わらなければいけない

と感じた。

- 認知機能について初めて知った。今後の対応に生かしていきたい。
- 今日のスタッフ8人の役割分担が、端的で分かりやすく、今迄のSSTの講義を受けた時より、別な意味で楽しく受けられました。母親役の方、やわらかく良かったです。他の皆様も大変気持ち良く聞けました。
- とっても参考になりました。今現在、気持ちに余裕がない状態だったのですが、今日、この事を頭に入れて日々接していきたいと、常に忘れないように接していきたいと思えます。
- 大変参考になりました。実践していきます。
- 3人グループでの練習、何度もやることによって、身に付くと思いました。

さて、横浜家族SST交流会としてのデビューセッションを終えた6人のメンバーはピアサポーターの役割を終え、ホットな興奮を味わっていました。片柳さんが、「ピアの力を見せつけられたなあ(笑)自分たちにはできない、そんな場面に立ち会えて幸せでした」と語っていたように本当に素晴らしい場面に同席させていただきました。それぞれの方の感想もいただきましたので、最後にご紹介します。

「大変でしたけど楽しかったです。久しぶりの達成感と充実感。みんなで作り上げることの素晴らしさを味わえました」なごみ 「ドキドキしていたがやれちゃいました。『とってもよかったよ』と言われ、うれしかったです」あき 「最初は心配でしたが、肩の荷が下りました」けい 「ロールプレイを間違ってしまったが、それで一体感ができた感じ、楽しい会場でした」よっ 「やっているうちに緊張が取れ、うまくいった」かつら 「スタッフが良かった。はじめは下を向いていた会場がだんだんこちらに顔を上げてくれた。また、機会があればこの活動は続けていきたい」ハチ

精神障がい者の雇用現場スタッフが交流

～ 神奈川県精神障害者就労支援事業所の会研修会に参加して ～

2月15日、まだまだ寒さの厳しい夜。かながわ県民活動サポートセンターで神奈川県精神障害者就労支援事業所の会（以下、事業所の会）の研修会が行われました。

研修会は事業所の会活動の大きな柱の一つです。今まで行われた研修会は、主なものとして、統合失調症やうつ病について、精神障がいの障がい特性についてなど精神科医や臨床心理士の方々にお話を伺っていました。また、障がい者雇用に関して利用できる制度について行政の方からお話を伺ったり、就労準備訓練「トライ！」を受講しその後実際に働いている精神障がいのある方からお話をうかがったりしたこともあります。

今回の研修会は、事業所の会だからこそ企画できた貴重な研修会でした。

「現場の声～雇用現場のスタッフの悩み～」のテーマで実際に障がいのある方と一緒に仕事をされているスタッフの皆さんの話をうかがいました。

精神科の病気や障がい特性について全く知らないまま、障がい者の方と一緒に仕事をするスタッフの悩みや戸惑いをお話しいただくというものです（採用を決めるのは現場のスタッフでないことのほうが多いようです）。

そのことをどう解決したか、どのように乗り越えたかに視点を置くのではなく、どのようなことで悩んだか戸惑ったかを教えていただき、話していただくことがポイントでした。

こんな事を言うてはいけないのではないか、こんな事を思う自分は心が狭いのではないかと日頃思っていることを聞かせていただき、そして参加した皆さんと思いを共有していただくことが目的の研修会でした。

お話ししてくださったのは、光文図書株式会社、武藤工業、横浜市場センター株式会社、株式会社京急ウィズスワンベーカリー県立大学店の方々です。課題として大まかですが以下のような話が出されました。



- 作業面では、丁寧だが時間がかかる。もう少しスピードアップしてもらえるといい。
- 体調が良い時とそうでない時の波がある。作業量が一定でない。新しい作業になると緊張が高くなる。集中できる時間が短い。臨機応変に対応できる場合と、できない場合と、体調によって左右されているようだ。
- はっきり声に出して返事をしない。わかっているのかわかっていないのかははっきりしないことが困る。会話が単発で、つながらない。笑顔を見たことがない人もいる。
- 仕事の覚えも早かったし、頑張っていて、本人も楽しそうに仕事をしていたが、突然医者

から仕事をやめるように指示され、本人は従った。何が何だかわからなかった。

- 自分たちの知識のなさを感じる（どう対処した方が良いのか、情報や研修がほしい）
- 心配事など、困っていることなどを口に出して相談に来てほしい。

関係機関や専門家と連携を取りながら問題を解決していく、悩みを軽減していくこともできるかもしれませんが、今日のお話の中にも「色々な支援機関が関わってくれているようだが、実際のところは誰が何をやる人なのかわかりにくい」という発言がありました。

支援機関の一人として耳の痛いお話でした。

また、ジョブコーチとして支援にうかがっても「よくやっていますよ」「特に問題ないですよ」と笑顔でお話ししてくださっていたのにこんなことがあったのかと思知らされました。

私たち支援機関には伝わらない、また伝えても仕方がないことと思われることも多々あるのだろうと感じました。

困っていることや悩みを話していただいたのに、会社の方は「付き合っていくうちにわかってきました。新人と同じです。はじめは気になったが慣れてきました」「ミスすれば会社の責任です。ミスのないよう、ミスしないよう指導していきます」「あまり負担にならない部分を任せます」などのお話を聞いて、私は企業の方から「雇用したからには責任があります。障がいがあるとなかろうと同じ職場で働く者の1人として受け入れていますよ」というメッセージを頂いたように思います。最後に参加者アンケートからの感想をお伝えします。

- 精神障がい者の雇用を推測や自分の思いだけで考えていたが、今日話を聞いて自分が思っていたほど大変でないことがわかった。

- 障がい者雇用を現実的なものとして考えた
- 自分の会社でも取り組んでみたい。
- 新入社員を受け入れ、指導するのと変わらない。
- 専門家でない現場スタッフの生の声を聞かせてもらってよかった。
- わかりやすかった。

現場スタッフの悩みや戸惑いを話していただいたことで、事前に準備できることや心構えもできるのかもしれませんが、私たち支援機関の者が、障がい者雇用をお願いしてもなかなか思うようにことが運びません。しかし、現場のスタッフの皆さんにお話しをしていただいたことで、障がい者雇用を考えてもよいと声をあげてくださった事業所がありました。

悩みや戸惑いを時には出し合い、共有しあえる場をつくることが出来ると良い。そういったこちらの意図することと異なりましたが、これを嬉しい誤算というのかもしれませんが。

現場スタッフの抱える悩みは、支援機関の方々にもぜひ聞いていただきたい内容だったことを最後に付け加えて報告を終わりにします。

（YMSN 中島契恵子）



研修会のお知らせ

精神保健福祉研修会	参加費 1回	500円 (年間4,000円)
日 時 :	毎月第2金曜日(12月休会 全11回) pm. 7:00~8:30	
場 所 :	ひまわりの郷 OR ウィリング横浜 横浜市港南区 上大岡オフィスタワー	
内 容 :	ホームページをご覧ください http://forest-1.com/ymsn/	
S S T (生活技能訓練)研修会	参加費 1回	1,000円 (年間7,000円)
日 時 :	毎月第3木曜日(8月・12月休会 全10回) pm. 7:00~9:00	
場 所 :	横浜市総合保健医療センター 講堂 研修室	
全体会 :	認定講師のリーダー実践を学ぶ ~ 様々なケースへの対応 ~	
分科会 :	A. 初級コース B. リーダー体験コース C. ステップ・バイ・ステップコース D. 家族 SST コース	

当事者のためのグループ活動のお知らせ

詳細は各支援センターへお尋ねください

就労講座	港南区生活支援センター	毎月第3水曜日(原則) pm. 2:00~3:00
就労フォロー アップミーティ ング	港南区生活支援センター	毎月第1土曜日 pm. 2:30~3:30
	神奈川区生活支援センター	毎月第4日曜日 pm. 2:00~3:00
	Y M S N	O B 会の開催 就労者の S S T 実施
S S T	港南区生活支援センター	毎月第3土曜日 pm. 2:00~3:00

電話相談

毎週木曜日(1回/週) 10:00~15:30
相談専用電話 045-841-8294

会員について

会員を募集します。YMSNの活動を応援していただける方は会員になってください。(会費 正会員年間5,000円)
会員は、研修会(上記案内)への年間参加費が割引になります。
精神保健福祉研修会(1,000円) SST研修会(3,500円)
会員へは、情報誌が無料配付されます。

正会員5,000円(個人) 賛助会員12,000円(団体)
(正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)
振込先: 郵便振替口座 00250-6-71607
横浜メンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol.4 No.4
めんたるねっと2007第16号 2008年3月31日発行
間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行: NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク
理事長 武井昭代 編集代表 森川充子
〒233-0001 横浜市港南区上大岡東2-42-4
TEL 045-841-2179
FAX 045-841-2189
<http://forest-1.com/ymsn/>
e-mail: ymsn@forest-1.com

印刷: 横浜市総合保健医療財団
精神障がい者授産施設 港風舎印刷